

■ 2学期中間考査の反省を！

9月27日(火)から9月29日(木)まで2学期中間考査が実施されました。結果をよく反省してほしいと思います。3年生で11月以降に大学、短大、専門学校、企業に調査書を提出する場合、2学期中間考査までの結果で送られていくことになります。



1学期末までの評定平均値と異なる場合がありますので、よく確認しておきましょう。特に1・2年生のみなさんは、復習して学力を定着させていくだけでなく、今後、どのように普段の学習に取り組めば、より得点を得られるかを考えておく必要があるように思います。前号でもお伝えしていますが、1回1回の積み重ねが大事になりますので、毎回しっかり学習したうえで考査に臨むようにしてほしいものです。

■ 3年生・就職内定状況

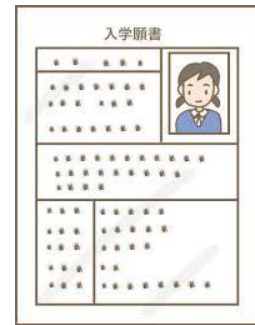


3年生で就職を希望している生徒の採用試験の結果が9月末に多く判明しました。大手の有名企業にも採用されるなど、概(おおむ)ね良好と言えます。上にも記したように、9月27日(火)から9月29日(木)まで2学期中間考査だったこともあり、そちらを優先させましたが、中間考査が終わった後にお礼状や就職承諾書(内定承諾書)を内定企業に送るよう進路指導部として指導しました。内定者は油断することなく、今後、残りの高校生活もしっかりと過ごし、4月からの社会人生活に備えてほしいと思います。なお、今後(※特に2月から3月にかけて)、各企業で研修の機会が設けられるものと思われます。その辺も自覚して行動を取っていくようにしましょう。

残念ながら、9月に採用内定を得られなかった諸君は、気持ちを入れ直して、じっくりと志望企業を考えながら進めていってほしいと思います。地元の企業はどちらかというと面接重視ですから、高い学力よりも、これまでの学校生活や部活動等を通して、何を培ってきたか、志望企業にどう貢献していくことができるかという部分が見られると思われます。4月から折を見て学年集会などでお話ししていますが、やはり、「面接ノート」をしっかりと準備して、多くの先生方と面接練習しておくことを勧めます。面接の基本として、「志望動機」、「高校生活(特に何をどう頑張ったか)」、「志望企業にどう貢献し、どんな社員を目指したいか」といったことを柱に、『進路活動のてびき』に記載されている質問事項をノートにまとめて、自分の言葉で話せるように繰り返し練習しておきましょう。

■ 指定校推薦での受験決定者へ

BLEND でもすでに何度か連絡していますが、第1回推薦委員会で、学校推薦型指定校制での受験が許可された生徒に対して、指定校制専用の募集要項をすでに渡しているかと思えます。大学、短大、専門学校によりさまざま、予め要項が学校に送られてきている学校もあれば、推薦委員会等で人数が確定してから学校に報告し送ってもらうところ、あるいはwebのみでの対応など、まちまちですので、よく確認して準備を進めていきましょう。

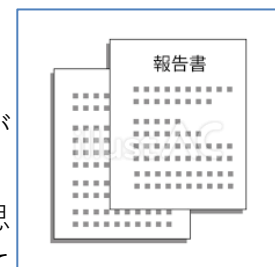


加えて、事前課題の提出を求められる学校もありますので、期限までに余裕を持って準備を進めてください。大学によっては、事前課題の提出内容では不十分で、やり直しを求められたケースもありますので、「何とかなるさ。適当に済ませよう」などと思わずに、先生方に相談しながら、より良い内容になるよう努力してください。

先にも記しましたが、要項をよく確認して進めている生徒が多い中で、一部に確認不足が露呈するケースがあります。提出期限などを予めよく確認しておいてほしいと思います。まれに、焦りながら「明日までに出願書類を提出しなければなりません」と言いつつ、書類がまったく完成していなかったり、調査書発行の申請をしていなかったりする生徒も過去にいましたので、そのようなことにならないよう十分に注意してほしいと思います。

■ 受験報告書の活用を

上記の学校推薦型指定校制での受験者に限らず、先輩方が残した「受験報告書」をよく参考にして、面接の質問事項、面接の形式、小論文のテーマなどをよく確認してほしいと思います。以前は紙ベースでしたが、現在はデータ管理されており、探しやすいになりました。進路指導室で、検索したい学校や何年前の先輩の資料かを伝えてもらえれば、協力して検索します。なお、進路指導室のパソコンは台数に限りがあるので、急ぎの人がいる場合には、そちらを優先させていますので、ご了承ください。



「受験報告書」というと、3年生が検索するものというふうに考えている1・2年生諸君もいるかもしれませんが、早いうちから検索しておくことを勧めます。なお、特進コースについては、基本的に一般受験で、大学入学共通テストや国公立大学の二次試験、私立大学の一般入試を目指して学習に励んでいくのが基本になりますが、過去には推薦入試や総合型入試で進学先を決定させている者も多くいました。そういった先輩方の資料（※特進コースの卒業生の資料は特に細かいことまで記載しているものが多いです）も残っていますので、ぜひ活用してみてください。

■東日大・いわ短希望者へ

東日本国際大学およびいわき短期大学を11月19日(土)に学校推薦型選抜の指定校制および公募制のⅠ期(※いわき短期大学はⅠ期・Ⅱ期の区別がありません。11月19日の1回のみ)で受験する者は、出願期間が11月1日(火)から11月10日(木)となっていますが、11月4日(金)には進路指導部で取りまとめて持参したいと考えていますので遅れないように準備してください。



提出書類の中で、本校生は東日本国際大学、いわき短期大学を問わず、「奨学金申請書」を必ず提出することになります。一部、部活動でスポーツ推薦に該当する場合は「スポーツ(部活動)奨学生」、学業特待を希望する場合には「学業奨学生」と記載しますが、多くは「附属高校奨学生」で、入学金が免除になります。10月の総合型について数名応募しましたが、その際、「奨学金申請書」を準備していない生徒がいました。勘違いのないようお願いします。

面接の練習については、進路指導部側で3名ごとにグループを作って日程を決め、少なくとも2回は毎年練習の機会を設けています。ただし、今年度は特に東日本国際大学の指定校制での希望者が多いため、練習の日程がきつめになる可能性があります。予め念頭に置くようにしてください。

例年、グループでの面接練習をしていて、「徹底して練習しているな」と感じる生徒と「全然練習していないな」と感じる生徒の差が大きいです。練習不足の生徒は、志望動機などで言葉に詰まるケースが多いです。限られた時間の中での練習になります。少しでも充実したものとするために、進路指導部によるグループ練習の前までに、担任の先生や副担任の先生等によく練習してもらうようにしましょう。生徒の中には、「練習しなくても何とかなる」と思って試験に臨み、本番で冷や汗をかく者もいたりしますので、油断することなく練習を徹底したうえで臨んでもらいたいと思っています。

■日本学生支援機構・奨学金について

3年生で6月、7月の提出期間内に日本学生支援機構・奨学金を申し込んだみなさんの中で、2名ほど書類の不備等があるとのことで、学生支援機構側から連絡がありました。すでにお伝えしていますが、例年、学校がタッチできないマイナンバー関係で不備があり、審査に時間がかかるケースがあるようですが、そちらがクリアであれば、11月から12月末にかけて、審査結果が送られてくるものと思われます。なお、特に2回目については12月末に審査結果を送るとの記載があることから、冬休み中に届くことも考えられます。その場合は、1月に配付ということ考えられますので、予めご承知おきください。



■ 坪井厚子先生を悼んで



8月26日に昨年度まで本校に勤務されていた坪井厚子先生が58歳で亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

1年生のみなさんには分からない話になってしまいますが、坪井先生は2001年から本校で勤務されておりました。筆者も同じ学年を担当したり、進路指導で一緒したりしましたが、「笑顔を絶やさず、とても気配りをされる先生」という印象が強くあります。長く闘病されておりましたが、それでも弱音を吐いたりしたことはありませんでした。英語科教師という仕事を全うされたかったのではないかと思いますし、昨年度途中で体調悪化により退職しなければならなくなったときには、さぞや無念であったろうと想像します。

現在の2年生や3年生諸君の中にも、坪井先生を気遣って、毎時間、授業前に先生の教科書やCDプレーヤーを職員室から教室まで一緒に寄り添いながら運ぶ生徒たちがいました。坪井先生のことを慕ってのことで、微笑ましく見ていました。昨年度途中で坪井先生の授業を受けられなくなり、ショックだったでしょうし、残念だったことでしょう。

この4月以降、20歳になる2年前の卒業生は、中学1年生から中学3年生まで坪井先生が担任をされておりました。筆者も彼らが中学1年生のときに社会科の授業を担当しました。女子は非常に落ち着いており、極めて優秀な生徒もいましたが、男子はかなりやんちゃな生徒が多く、授業中にもぎやかで、よくある女子生徒から「先生！もっと男子に厳しく注意してください！！」などと言われることがありました。その女子生徒はしっかり学習に取り組みたいという意識が強く、高校でも群を抜く成績で見事志望大学の薬学部合格しました。

そのやんちゃだった男子生徒たちも高校3年生のころにはすっかり成長し、授業を受け持っても「だいぶ大人になったな」と筆者も感じておりました。中学時代、毎日接していた坪井先生にとって、彼らの成長は感慨ひとしおだったのではないかと想像します。それぞれ、希望を胸に本校を巣立っていった先の生徒たちにとっても、坪井先生の訃報は非常に辛いものだったことでしょう。

日頃、よく「健康に注意して・・・」ということを言います。おそらく、坪井先生もいろいろと注意を払ってこられたなかで、大きな病に襲われたことと思われそうです。どんなに注意していても、これは不可抗力の部分があり、どうにもならなかったのではないのでしょうか。坪井先生も悔しい思いをされたことと思われそうですし、そのときはいかばかりだったかと考えると胸が張り裂ける思いです。

坪井先生にはどうか安らかに天国から昌平中学高等学校のことを見守っていただきたいと思います。若いみなさんたちは、希望に胸を膨らませながら、坪井先生の分もしっかりと生きていってほしいと切に願っています。

文責：清水聖（進路指導主事）